2014 年第 2 回 島カフェ・島嶼コミュニティ学会

「島のくらしと漁業 ――脱経済成長社会を展望するヒント」

乾 政秀（㈱水土舎最高顧問）

＜講師紹介＞

乾政秀氏は、水産コンサルタントとして長年福島沖の海洋調査に従事され、近年はそのご経験を生かし、漁村などを中心として日本全国の島々で聞き書きを行っておられます。今回は、福島原発事故以後の海洋汚染の現状と漁業者への影響を踏まえお話をして戴きます。

＜要旨＞

私は、現在進行中の原発事故と漁業被害は、成長社会と脱成長社会の象徴的な衝突と理解しています。グローバル化した大量消費社会、これを支える際限なき経済成長、そして大量消費という近代化は環境・生態系の破局を促し、世界は袋小路に入りつつあります。その象徴が原発事故です。一方の漁業は、生態系サービスを享受する狩猟産業です。健全な生態系の存在が産業の存立条件になっています。そしてその生産は太陽エネルギーに支配され、有限です。つまり脱成長型の典型的な産業なのです。古い産業と言われてきた漁業こそ、まさにこれからの脱成長社会を展望する上でのヒントを与えてくれます。

同様に島は、歴史的にみると限られた耕地で自給的な食料を確保し、島の周辺に生息するあるいは回遊によってもたらされる水産資源を食料以外の商品交換の手段としてきました。島の経済はある意味では脱成長社会がわかりやすい形で存立していたわけです。資本のない島では共同網のようなかたちで島ぐるみのいわば平等な漁業生産システムが様々な形で作られてきました。貧しかったが、別の面では豊かな社会があったと思います。そしてゆっくりとした時間の流れがありました。しかし、成長社会という近代化、商品経済の波に飲み込まれ、今や耕地は荒廃を極め、過疎化と高齢化が進行しています。

一方、島の暮らしには、逆に脱成長社会を展望するヒントがあったと考えます。つまり、隘路に入りこんだ近代化を脱成長社会に導く「鍵」が「島」であり、「漁業」にあるのだと思っています。少し島の事例を紹介しながらお話したいと存じます。

当会は、参加者が気軽に情報交換のできるお茶会のような場を作ることを主眼にしております。原発事故、汚染水処理、過疎化の問題などなど関心のある方はどなたでも自由に御参加下さい。一緒に考えませんか！

＜日程＞：2 月 22 日（土） 15:00～17:00

＜会場＞：東洋大学白山キャンパス 6 号館 2 階 6205 教室

＜アクセス＞：三田線白山駅下車徒歩 8 分

http://www.toyo.ac.jp/site/access/access-hakusan.html

＜司会＞：中瀬勝義（海洋観光研究所 エコライフコンサルタント）

＜コーディネート＞：小池康仁（法政大学沖縄文化研究所国内研究員）

＜主催・問合せ先＞：東洋大学社会学部・アジア文化研究所 松本誠一（島嶼コミュニティ学会会長）